

お客さまやサポーターと共に 気候変動へのアクションは未来への約束

今、人類が直面する課題「気候変動」について、Jリーグ執行役員サステナビリティ担当の辻井隆行氏と、JALグループでサステナビリティを推進する執行役員の小川宣子が対談し、共に目指したい未来を語り合いました。

小川 2019年から本格的にJALグループは気候変動対策やSDGs達成に向けた取り組みを始めました。「飛び恥」という言葉が聞こえ始めたのもきっかけのひとつですね。Jリーグのサステナビリティ部発足にはどんな背景があるのでしょうか？

辻井 一番は、気候変動の試合への影響です。西日本豪雨のあった2018年以降、自然災害で中止になる試合が約5倍に増えたというデータがあるんです。小川 航空機の運航時にも気候変動を意識する機会は増えました。台風などの影響に限らず、突然起こる乱気流による揺れ

辻井隆行

TSUJII Takayuki
公益社団法人日本プロサッカーリーグ（Jリーグ）執行役員サステナビリティ担当。アウトドアパレル企業パタゴニアの日本支社長などを経て、2023年より現職。



小川宣子

OGAWA Noriko
JAL執行役員サステナビリティ推進委員会委員長。2019年よりサステナビリティ関連業務に携わり、2022年よりESG推進部部長としてJALグループのESG戦略を推進。



の増加はその一例ですね。辻井 もうひとつは熱中症リスクです。選手はもちろん、炎天下で応援して下さるファン。サポーターの健康も心配です。ナイトゲームを増やすなどの対策療法的なことではできるのですが、根本原因である気候変動にしっかりと取り組まなければ、と。



「すてる油で空を飛ばう®」では、家庭で使用した食用油を回収。

気候変動への打ち手 CO₂削減方法は？

小川 私たちも、どうしてもCO₂を排出してしまう交通機関

として未来のために手を打たなければいけないと、2050年までにCO₂排出量実質ゼロを達成するという目標を掲げています。省燃費機材への更新や日々の運航の工夫などの打ち手に加え、切り札ともいえるのがCO₂の排出量を抑えられる燃料、「SAF (Sustainable Aviation Fuel)」の利用拡大です。ただ、供給が追いついていないこと、価格が課題ですね。辻井 Jリーグは昨年、国連が主導する「スポーツを通じた気候行動枠組み」に署名し、2040年のカーボンニュートラルを目指しています。キャッチコ



ピーは「未来の地球に、いいパスを」。でも、僕らだけがクリンになったところで社会は変わらない。だから、サポーターの声やスポーツの影響力を使って、広くメッセージを発信したいと思っています。年間延べ1350万人の来場者が、「航空機の燃料がクリーンになるっていいよね」って言えば、SAFの生産が加速しそうですね。小川 「すてる油で空を飛ばう®」というプロジェクトを進めているので、SAFの原料となる廃食用油の回収ボックスをスーパーなどに置かせていただいています。ぜひスタジアムにも！

今回のテーマに該当する目標



辻井 遠征に飛行機は不可欠ですから、SAFが当たり前にならないと僕らも困ります。多くの人が「そうだ！」と言ってくる風潮を作れたらいいですね。気候変動とのつながりをまずは知るところから

小川 私たちも、サステナビリティについてお客さまに知っていただくために、ポップな動画を作ったりしています。ファンや子ども向けの取り組みには、どんなものがあるのですか？

辻井 インタランド発祥の「スポーツポジティブリーグ」に、60クラブと共に参加し、気候変動対策への取り組みを数値化し



各地で実施している「スマイルフットボールツアー」。©J.LEAGUE

て、サポーターやホームタウンを巻き込んでいこうとしています。そのために、まずはサッカーと気候変動が関係していることを知ってもらおう動画『サッカーができる日?』を作成しました。生徒役は元Jリーグ選手の小野伸二さん、中村憲剛さん、内田篤人さんです。小野さんとは、子ども向けのサッカー教室とサステナトークを組み合わせた「スマイルフットボールツアー」も実施しています。小川 アスリートの声にはみんなが耳を傾けますね。辻井 欧州への視察では、スタジアムで提供するおいしいヴィーガン食や再生エネルギーの活用など、気候変動対策に無理なくつながる仕組みをいろいろと知ることができました。Jリーグがクラブ・自治体・企業のハブとなって、こうした仕組みや未来世代への応援団を作っていきたくと思っています。小川 素晴らしいですね。私たちJALグループも、人とモノの移動がもたらす体験価値と、豊かな地球を次世代へ引き継ぐ努力を続けてまいります。本日はありがとうございました。

対談撮影／高橋マナミ

2015年9月、全国連加盟国(193カ国)により「持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals: SDGs)」が採択されました。2030年までに、貧困や気候変動、平和的社会などの17の目標を達成すべく、JALグループも社会の課題解決に取り組んでいきます。

